うもれ木

魚津埋没林博物館広報誌
第39号
発 行 日：平成26年2月28日
編集発行：魚津埋没林博物館
印　　刷：魚 津 印 刷（株）

一つの土器片からわかること

埋没林博物館の水中保存館に一片の縄文土器が展示してあります。小さな土器片ですので、多くの見学者はこの前を素通りしていまいますが、この土器の発見がそれまで、あまり確証のない一般論でしか語られなかった魚津埋没林の年代を決定づける鍵となりました。樹根の下から出土した縄文土器は約3,000年前のものです。つまり埋没林は3,000年前より新しいことがわかりました。

魚津埋没林の年代については、1934年（昭和9）に埋没林の調査に訪れた地質学者の脇水鉄五郎東京大学教授の「一般論で」と前置きされた「5,000年より新しからず、1万年より古からず」のコメントが、最も権威ある年代の想定と魚津では受けとめられていました。縄文土器の発見はその通説を覆すものとなりました。

魚津埋没林出土の縄文土器

館長 麻柄一志

埋没林の発掘

1954年（昭和29）4月に富山市を中心会場とした富山大産業博覧会が行われることになりましたが、その第2会場として合併間もない魚津市が名乗りをあげました。魚津市の計画は、国の特別天然記念物指定地である魚津埋没林の保存地域周辺に展示館を建設することと1944年（昭和19）に戦争の影響の閉鎖された魚津水族館の再開することでした。富山大産業博覧会への参加が富山県や富山市から承認されると、魚津市は早速水族館と埋没林館の建設に取り掛かりました。

出土した縄文土器を調べる山家基治さん

1953年6月に現水中保存館を建設するために、魚津港の北側で発掘調査がおこなわれました。発掘調査で地中から顔を出した樹根を掘り出したところ、埋没樹根の下から予想外のものが出土しました。縄文土器の破片です。つまり、この場所でかつては縄文人が生活しており、縄文土器などが埋もれた後に杉を主体とする森林が形成されたことが判明しました。縄文土器の年代がわかれば、埋没林の年代の下限がわかることになります。

この頃は埋没林の年代を知る科学的な手掛かりはなく、脇水鉄五郎教授の言葉から約1万年前のものであろうと考えられていました。

縄文土器の年代

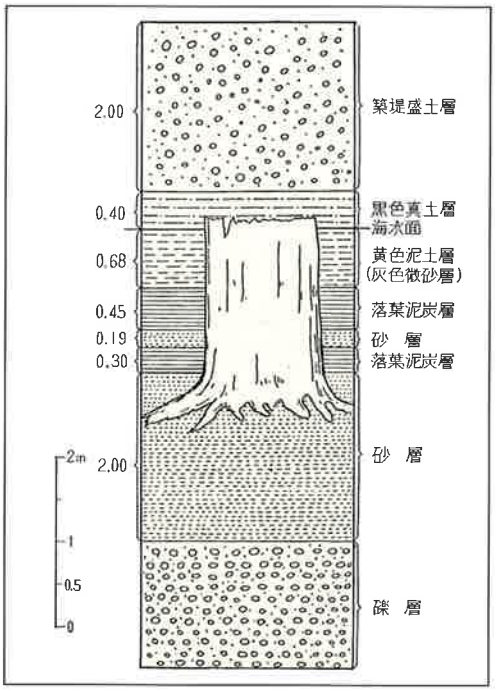
発掘調査を実施した魚津市教育委員会は、戦前から埋没林の研究で知られていた元魚津中学教諭の山家元治さん（この調査時は魚津高校講師）に調査をお願いし、文化財保護委員会（現在の文化庁）からも専門家を派遣してもらっていましたが、考古学の専門家をおらず、樹根の下から出土した土器の重要性は認識できましたがその年代は不明でした。山家さんは新聞の取材に対し、5～6,000年前の縄文時代中期のものかもしれないと、答えています。

その後、昭和30年に魚津市西布施地区の天神山遺跡の試掘調査に訪れた同志社大学酒詰仲雄教授との湊晨富山考古学会元会長が埋没林から出土した土器を調べました。その結果、模様のはっきりした土器片（表紙写真）は縄文時代後期の終り頃のものと鑑定されました。

縄文時代後期末の年代は約3,000年前と考えられていたので、ようやく埋没林の水没した年代についての具体的な手掛かりが得られた訳です。

表紙写真の土器は「瘤付土器」と呼ばれる縄文時代後期末の東北地方で盛んに製作された土器です。土器の表面に小さなボタンのような粘土が張り付けられています。日本海側では新潟県の北部までこの瘤付土器の分布圏になります。同じ時期の富山平野は近畿地方の影響を受けた井口式と呼ばれる土器が分布していましたが、東北系の瘤付土器も少量ですが出土しています。

この土器と同じ型式の土器の年代測定がおこなわれていますが、最近の測定では約3,100年前のものと考えられています。



1953年調査の埋没林地層図

埋没林の年代

この土器の発見によって、考古学者は魚津埋没林の年代を3,000年前より新しいと考えました。約3,000年前に縄文人がこの場で生活した後、土器は埋もれ、堆積した土砂や粘土の上に杉を主体とする森林が形成されました。発掘された埋没林は樹齢が500年ほどと考えられていたので、さらに500年は経過したのち、埋没林の森林が水没したと考えることができました。つまり、魚津埋没林が埋没した年代はどんなに古く考えても2,500年前を遡らないことになります。

水中保存館建設のための発掘調査

しかし、「1万年前の埋没林」としてオープンした埋没林博物館としては少し困った問題です。なかなか解説の年代を変更できない状態が続きましたが、1965年に富山大学の藤井昭二教授が水中保存館の樹根の一部と樹根周囲の泥炭層を学習院大学で放射性炭素による年代測定をおこなっていた木越邦彦教授に送り、年代測定をしました。

その結果、樹根は1,960±70年前、泥炭層は1,750年±100年前と報告され、出土した縄文土器から考えられた埋没林の埋没年代と大きな差がなく、ようやく1万年前ではなく、2,000年前の埋没林と説明されるようになりました。

その後1989年に今のドーム館地点の発掘調査がおこなわれました。この調査では最新の放射性炭素の年代測定機械のある名古屋大学に測定を依頼し、その結果出土した樹根は約1,400～1,800年前とされ弥生時代後期から古墳時代末にかけて森林が枯れ、土砂に埋まったことがわかりました。

このように、埋没林の年代は科学の進歩にあわせるようにどんどん新しくなってきました。今後もさらに新しい研究方法が開発されれば、また新しい年代が想定されるかもしれません。博物館に展示されている縄文土器は科学的な年代推定の第一歩となった記念すべき証拠です。

シリーズ

埋没林の仲間たち ㊳
コナラ属（ブナ科）

ミズナラの果実(ドングリ)

コナラの花

子どものころ、ドングリを拾ってポケットをいっぱいにした経験をもつ人は多いと思います。細長いのや丸いのがあって、つやつやしたドングリは、子どもの宝物です。そのドングリがなる木が、コナラ属の仲間です。

ドングリの木の花はなじみがないと思いますが、小さな花が多数ひも状にぶら下がる雄花と、枝の先に数個つく雌花があります。雄花は花が終わればすぐに“ひも”ごと落ちます。コナラ属には、大きく分けて冬に葉が枯れるナラの仲間と、冬でも緑の葉があるカシの仲間とがあります。

＊　＊　＊

魚津埋没林の過去の調査の中では、シラカシの枝葉、ナラ類の果実と花粉、カシ類の木材と花粉が見つかっており、埋没林の元となったスギ林の中にもドングリの木が混じって生えていたことが分かります。現在の魚津市内では、平地から標高400m付近までにはコナラやウラジロガシ、それ以上の高地にはミズナラが広く分布しています。

ご利用案内

○開館時間　午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）
○休 館 日　年末年始
○入 館 料　・大人（高校生以上）…520円　・小中学生…260円
○交　　通　・ＪＲ北陸本線魚津駅 ・富山地方鉄道 新魚津駅 } 下車1.5km (タクシー・・・5分 / 徒　歩・・・25分)
・北陸自動車道魚津ICから3km車で10分

特別天然記念物 魚津埋没林博物館
〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂814☎(0765) 22-1049
ホームページ　http://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/
e-mail　nekkolnd@city.uozu.toyama.jp